

【行政の指針として】

来年で合併 10 周年であり、当審議会も当初はこの 10 年を目途に設置されたものであるように、一定の節目を迎えることは確かだが、本庁からの明確な指針として、総合支所の規模縮小化が打ち出されているわけではない。

ただ、平成 23 年 4 月から、総合支所においては、地域振興課、生活環境課、福祉健康課の 3 課のうち後 2 者を統合して「生活福祉課」とし、2 課体制となっているのは事実である。

【今後の総合支所に対する意見について】

具体的に縮小されることが確定しておらず、また行政のサービスとしてなにがどう変わっていくのか未定である中、仮に総合支所が支所になったときなどを想定し、縮小が見込まれるための予防措置として意見を提出するにあたり、委員よりそれぞれ発言があった。

主な発言は次のとおり。

- ・組織の中で専権事項にあるのではないかと思うので、行政の中でやりやすい組織を作っていくものだと思う。日本全体が少子高齢化に向かっている中で、当然伊勢市も同じである。将来的にお金もなくなっていく、職員の数も減るという中で、自分は時代の流れのなかでは組織の縮小は当然だと理解している。
- ・財政困窮の折、縮小はどうこうないが、本庁へ業務を一括するなら本庁の駐車場は拡張して欲しい。縮小することに関しては自分たちの税金なので経費が必要なのにおいておくのは税金の無駄。ある程度の不便はわかっているの合併だと思う。スリム化をすすめる中で、何もかもは残していけない。多少の不便は生じる。
- ・今の総合支所は人数に関わらずよくやってくれていると感じている。もし縮小となる場合にどの部分がどのくらい欠けるのかを知りたい。
- ・旧二見町の時代から比べると合併後に相当縮小されている。民生委員をしていて、一人暮らしや二人暮らしの高齢者の方が増えていると感じているが、そんな方たちが現状は二見総合支所で間に合うことが、本庁まで行かなければ行かなくなったとき、実際に行けないと思う。どういう風に縮小されるの

かわからないが、現状の二見総合支所でサービスとしては目一杯ではないか  
と感じている。支所と同様になることは絶対に反対。これは住民サービスを  
著しく低下させる。

- ・福祉に関して、百歩譲って本庁が行ってすぐに対応できる体制であればと思  
うが、現状はパイプ椅子が並んで、すごい順番待ちになっている。そうする  
と二見や御菌や小俣で済んでいた方がそこへ行ったら今以上にいっぱいにな  
る。ここの職員が本庁へ行ったところで忙しいには変わらないと思う。それ  
ならば一番の弱者にあたる高齢者の方や、本庁へ行くのが大変な方のことを  
考えて欲しい。
- ・総合支所は支所長が部長級であることで、やはり力があるように思う。住民  
としては決裁権のより大きい人がいてもらったほうがより良いサービスをし  
ていただけるように感じる。
- ・例えば支所になって区長会がなくなれば、結局は二見町の住民サービスが低  
下していくと思う。区長が総合支所へ話をして、部長級の支所長からそれを  
本庁へあげていくが、支所になれば区長会があっても何もつながりが出来て  
こない。予防的に審議会で意見を出すことによって総合支所から支所にする  
にしても段階的に落としていくのといきなり支所にするのと随分違うと思う  
ので、そのあたりについては、声を上げていかないとと思う。
- ・小俣の総合支所、御菌の総合支所もそれぞれ支所長がいるが、各地域の方が  
いてくれる。二見も支所長が地元の人で旧町のことを考えてくれるのはあり  
がたい。先手をうつという部分もあって、市から意見を求められてからとい  
う堅苦しいことを言っていると、いざされて、どうしようああしようと言っ  
ているうちにほとんど決まってしまうている。スリム化することは反対する  
ことではない。ただ、旧二見町の主張が前のように通らないかもしれないが、  
ある程度は聞いてもらえるような組織を残して欲しい。
- ・単独課の分散型について、現状でも対角線の場所へ用事のある方は不便を感  
じる。ただ中央に集中させるにしても今の庁舎ではとても無理。車を停める  
のも大変。それを考えると今の総合支所を支所にして、業務を中央に一括は  
無理では。その計画をしっかりとしてもらわないといけない。
- ・浜参宮を無事に終えられたのは、やはり総合支所長が核となって、人員が少  
ない中対応してくれたから。今の人員は確保して欲しいというところが基本  
的な考え方で、例えば水道がなくなったときにはという時に、やはり二見は

観光に強いところなのでそういうところに入ってもらってボランティアの石杖となるような任務をしていただければ町民にとってもプラスになると考える。総合支所はこのまま存続して、部長級だからこそできる力があるというふうを考える。

- 仕事柄色々な所へ行くが、伊勢の考え方が縮小の仕方が随分早いと感じた。志摩や松阪、津をみてもゆるやかな縮小。窓口だけではなく、申請業務についてもそこで具体的に指示は出来なくても受付だけはできるとかそういうサービスはまだ残していたと思う。その辺が伊勢は5年くらいで早々たなくなってしまうと不便は感じている。  
人数が減るから業務が縮小されていくという考えはあると思うが、旧二見町の職員だと一人が受け持つ業務の種類が多く、対応していた。今の伊勢市では、大きくなるとそうなりがちではあるが、一人で一つのこと、下手したら二人で一つのことしかやっていないように思う。色々なことに即答ができない。当然トップからの指令がなければできないとは思いますが、規模が縮小されても対応できる方法があるのではという風に思う。
- それぞれの地域の特色を生かした総合支所づくりというか、当然住民サービスが低下しないままで、その地域の特性を残さないといけない部分があるように思う。それを縦割りの行政ではなく、地域の中で組織としてそのまま生かして欲しい。
- 他の地区も地域の特色があるのは同じなので、そこで核となるような形で総合支所がないと不便を生じる。もちろん行政のスリム化は必要なことだが、それは職員個人のスキルアップや機械化で対処できる部分は多くある。その一方で単純に人数を減らしてしまっただけではできないこともたくさんある。
- 支所になれば、支所長で判断できないことがいっぱいあって、本庁でしか対応できなくなるのでは。部長級なので難しい問題を持っていてもきちんと対処してもらえるが、全部本庁へまわされてしまうのではないか。民生委員に限らずほかのこと地域の問題も全て難しいから本庁へとなって二見町の住民が振り回されるのではと思う。今でこそ住民へのサービスは目一杯。その辺を十分に要望して欲しい。本当に弱い立場の人がみじめになっていくと思うので支所になるにしてもそれなりに対応してもらえるように行政へお願いしたい。